

# 2020年度 事業報告

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## 1 会員数の状況 (2021年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (会費1口5千円)	96	(98)
団体正会員 (会費1口1万円)	22	(23)
特別正会員 (会費5万円以上)	5	(5)
一般賛助会員 (会費1口2千円)	104	(104)
団体賛助会員 (会費1口1万円)	3	(3)
特別賛助会員 (会費3万円以上)	1	(1)
企業賛助会員 (会費1口10万円)	0	(0)

## 2 会議の開催の状況

### (1) 総会・理事会 (全て Zoom によるオンライン会議)

2020年

5月10日 理事会

6月21日 理事会

6月21日 通常総会

### (2) 運営会議 (全て Zoom によるオンライン会議)

10回開催 (2020年4月24日、6月5日、7月3日、8月5日、9月4日、10月8日、  
11月12日、12月18日、2021年1月29日、3月5日)

### (3) 共同代表会議

Zoomによるオンライン会議で8回開催

## 3 事業の実施の状況

### (1) 調査研究事業

2020年

11月2～5日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) オンライン シギ・チドリ類科学会議 (EAAF-SSM) に参加

11月5日 ハマシギ保全シンポジウムに参加

11月19日 モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査オンライン検討会に参加

2021年

1月22～24日 シギチドリ Online ミーティング 2021 に参加

2月2～3日 フライウェイ国内モニタリングオンライン検討準備会に参加

2月17日 東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP) 国内連絡会に参加

### (2) 保全・再生事業

- 「田んぼ10年だより」を3回発行 (10月、12月、3月)

- 農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を5回開催

2020年

8月、11月 田んぼに関する地域ヒアリングを2回開催 (大分県、北海道道央地域)

8月、11月 熊本県八代市で田んぼの生きもの調査を2回実施

- 9月11日 泡瀬干潟の鳥獣保護区（特別保護区）の2020年度の設置を求める要望書を、泡瀬干潟を守る連絡会、日本自然保護協会との連名で沖縄県に提出
- 9月13～18日 生物多様性条約のSBSTTA24 & SBI3の特別バーチャルセッションにオンライン参加
- 9月25日 普天間飛行場代替施設建設事業「計画概要変更承認申請書」にかかる意見書を沖縄県に提出
- 10月4日 第11回田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト地域交流会 in 徳島（小松島市）を開催
- 10月28日 泡瀬干潟の鳥獣保護区（特別保護地区）の早期指定を求める要望書を沖縄県に提出
- 11月15日 田んぼ10年プロジェクト参加者とのワークショップをオンラインで開催
- 12月5日 多面的機能支払い制度による田んぼの生物多様性向上についての勉強会を熊本県八代市で開催
- 12月18日 熊本県知事による川辺川ダム容認の撤回を求める声明を発表
- 12月19日～1月17日  
オンラインで開催された環境省主催のエコライフ・フェア2020に出展。

#### 2021年

- 1月18日 泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録に向けた鳥獣保護区設置についての要望書を沖縄県に提出
- 2月～3月 生物多様性条約のSBSTTA24 & SBI3のインフォーマルミーティングにオンライン参加
- 3月22日 生物多様性国家戦略を考えるフォーラムで分科会『2030年「生きもの賑わう農業」が主流化！』を開催（オンライン）

### (3) 普及・啓発事業

#### 2020年

- 4月～8月 湿地のグリーンウェイブ2020、キャンペーン実施
- 4月 湿地のグリーンウェイブ2020リーフレット（A5版16頁）制作・発行
- 8月28日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催
- 9月30日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催
- 10月24日 湿地のグリーンウェイブ オンライン・ミーティングを開催
- 11月25日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催（話題提供「都市の中の干潟」松本悟）
- 12月23日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催

#### 2021年

- 1月 湿地のグリーンウェイブ2021、募集開始
- 1月24日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催（話題提供「湿地に忍び寄るゲノム編集生物の影」原野好正）
- 2月24日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催（話題提供「球磨川大水害からダム問題を考える」つる詳子）
- 3月24日 湿地のグリーンウェイブ オンラインお茶会を開催（話題提供「久米島について語ろう」立石聡明）

#### (4) 国際協力事業

- 世界湿地ネットワーク・マネジメント委員会 (WWN-M) に参加 (9 回開催)
- 世界湿地ネットワーク・アジア地域代表会議 (WWN-A) に参加 (10 回開催)

2020 年

- 9 月 17 日 ラムサール条約国別報告書に準拠した国内 NGO へのアンケートの報告書を環境省に提出
- 10 月 ラムネット J が IUCN に提出した「水の自然な流れに関する動議」が採択された
- 12 月 4～6 日 日韓 NGO 湿地フォーラムを八代会場とオンラインで開催 (4 日：球磨川、瀬戸石ダム被害調査)

#### (5) ネットワーク推進事業

- 「ニュースレター」4 回発行 (4 月、7 月、10 月、1 月)

#### (6) その他の事業

- 2020 年 10 月 ラムサール・ネットワーク日本設立 10 周年記念誌／設立から 10 年の軌跡〈2009—2019〉を発行

### 4 助成金・受託事業の状況

- (1) 地球環境基金助成金 田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト  
2020 年 4 月～3 月 2,566,000 円
- (2) パタゴニア環境助成金プログラム (前年度末より繰越し)  
2019 度から繰越～2021 年 3 月 605,966 円
- (3) 経団連自然保護基金 球磨川プロジェクト・日韓 NGO 湿地フォーラム  
2020 年 4 月～3 月 2,024,647 円
- (4) 環境省 令和二年度北極渡り鳥イニシアチブ作業計画日本語版編集業務 請負契約  
2020 年 11 月 12 日～2021 年 2 月 26 日 530,000 円
- (5) 環境省 令和二年度日米ロ・ハマシギ保護協力業務 請負契約  
2020 年 8 月 11 日～2021 年 3 月 31 日 620,000 円
- (6) IUCN-J 生物多様性国家戦略を考えるフォーラム分科会③「2030 年『生きもの賑う農業』が主流化！」(2021 年 3 月 22 日開催) のコーディネート費  
2021 年 3 月 10 日～3 月 22 日 70,000 円

## 2020 年度 事業報告（プロジェクト別）

### (1) 調査研究事業

#### ●シギ・チドリ部会

2020 年度は球磨川河口のラムサール条約湿地登録へむけた活動に対する経団連自然保護基金の助成活動の一環として球磨川の重要な生態系としてヘラシギを含むシギ・チドリ類保全活動を位置づけて熊本圏における国際シンポジウムを計画したが、COVID-19 感染拡大により実施することができなかった。しかし、11 月と 1 月に行われた国際と国内のオンライン会議に関連して委託事業と、地域でシギ・チドリ類の調査をして来た方との新しい繋がりが始まった。

#### ・国内調査者との新しい繋がりに関する

1 月 22～24 日にモニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査関係者を中心とした Shorebird Stepping Stone-ML が環境省とともに主催して、「シギチドリ Online ミーティング 2021」を開催した。ここで部会メンバーは、シギ・チドリ類の球磨川河口の利用、鳥類の釣り糸被害、ハマシギ亜種の渡りなどに関する発表を行った。発表の一つに瀬戸内海の埋立地でシギ・チドリ類の調査を一人で行って来たが何とか鳥たちの生息地を残したいという訴えがあり、部会メンバーがコンタクトを取り保全に向けた協力の方向が出てきた。

#### ・環境省事業受託業務：シギ・チドリ類の保全に関して、2 つの受託業務を行った。

**令和 2 年度 日米ロ・ハマシギ保護協力業務**：東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) におけるシギ・チドリ類の減少と生息地の劣化に対して、日本のシギ・チドリ類の優占種であるハマシギに焦点を当てて 2020 年度に行われた「日露米小型シギ・チドリ類保全専門家ワークショップ～ハマシギに焦点を当てて～」の成果を EAAF 全体の政府・NGO などに広める業務をネットワークとして請け負った。韓国生態研究院主催「EAAF シギ・チドリ類科学会議 (EAAF-SSM)」(2020/11/2-6・オンライン) の一つのセッションとして「ハマシギ保全シンポジウム」を実施し、米・露・韓・中の専門家と協力して発表・討議を行ったシンポジウムの結果を同地域フライウェイパートナーシップ (EAAFP) シギ・チドリ類作業部会に報告した。

**令和 2 年度 北極渡り鳥イニシアティブ作業計画日本語版編集業務**：上記 EAAF-SSM を共催した北極評議会の北極渡り鳥イニシアティブ (AMBI) の作業計画 2019-2023 の EAAF 版の日本語版発行に関わる業務である。AMBI の EAAF の保護優先種 11 種には特に日本にとって重要なヘラシギ・カリガネ・コクガン・シマアオジ・ハマシギが含まれており、民間・行政を含めて国内での理解を深め取り組みを強めることが目的であり、「北極渡り鳥イニシアティブ (AMBI) 作業計画 2019-2023 (改訂版)」の作成・翻訳業務をネットワークとして請け負った。

#### ・モニタリングサイト 1000 (MS1000)

2020 年 11 月 19 日に MS1000 シギ・チドリ類調査検討会が行われ、柏木が参加した。

#### ・EAAFP 国内連絡会

2021 年 2 月 2～3 日、フライウェイ国内モニタリング検討準備会が、国内 EAAFP パートナーシップサイト責任者を対象に行われ、呉地・柏木が専門家として参加した。この会議から、フライウェイ、パートナーシップサイトの CEPA を推進するグループの発足が提起され、活動を始めている。

2021 年 2 月 17 日に EAAFP 国内連絡会がオンラインで行われ、呉地・金井・柏木が参加した。

## (2) 保全再生事業

### ●沖縄・開発問題部会

#### ・泡瀬干潟のラムサール登録に向けて

泡瀬干潟のCOP14での登録に向けて、鳥獣保護区の設置を求める取り組みの一環として、現地でのシンポジウムを計画していたが、実現には至らなかった。助成金の獲得がならなかった後も、コロナ禍をふまえてオンラインでの企画を模索したが、設置反対派の抵抗が懸念されたため断念した。鳥獣保護区設置に向けては、県への要請を行ってきたが、沖縄市をはじめ設置に反対する勢力の抵抗が強く、県も先送りやむなしとなった。

#### ・意見書など

- 9月11日 泡瀬干潟の鳥獣保護区（特別保護区）の2020年度の設置を求める要望書  
宛先：沖縄県（泡瀬干潟を守る連絡会、日本自然保護協会との連名）
- 9月25日 普天間飛行場代替施設建設事業「計画概要変更承認申請書」にかかる意見書  
（沖縄県に申請の不承認を求めたもの）
- 12月18日 熊本県知事による川辺川ダム容認の撤回を求める声明
- 1月18日 泡瀬干潟のラムサール条約湿地登録に向けた鳥獣保護区設置についての要望書  
宛先：沖縄県（非公開での要請で提出）

#### ・その他

部会の活動ではないが、昨年7月に福岡県福津市竹尾緑地の開発問題がラムネットのツイッター上に書き込まれ、福岡県のメンバーを中心に動いていただいた。今年4月、緑地が守られたという嬉しい報告があった。

### ●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト（田んぼ10年プロジェクト）

#### ・国内での活動

参加団体／個人数が、300を越えた。田んぼ10年プロジェクトの地域集会1回（徳島県小松島市）、地域ヒアリング2回（大分県、北海道道央地域）、熊本県八代市で、田んぼの生きもの調査を2回（8月、11月）、多面的機能支払い制度による田んぼの生物多様性向上についての勉強会を1回（11月）開催した。2020年12月・2021年1月にオンラインで開催されたエコライフフェアに参加し、全国での活動状況を配信した。IUCNにじゅうまるプロジェクト会議に定期参加し、3月に生物多様性国家戦略を考えるフォーラムでは農業の分科会を開催した。田んぼ10年プロジェクトの成果報告書を3月に発行した。

水田での生物多様性向上の普及をはかる動画を作成し、WEBでの配信に備えた。「田んぼ10年だより」を3回発行、メーリングリストでの情報共有、専用ホームページの更新も行った。

水田部会を8回開催、農水省、環境省、国交省との水田決議円卓会議準備会を、5回開催し、水田の生物多様性に関わる多様な議論と提案を行った。

新行動計画策定に向け、田んぼ10年プロジェクト参加者とのワークショップを11月にオンラインで開催し、今後必要な活動について議論を行った。しかし、CBD COP15が延期され、生物多様性保全の国際・国内目標が未定となったため、新行動計画の検討・策定とキックオフミーティングは、2021年度へ延期することとした。

#### ・国際的な活動

国際会議（IUCN 世界自然保護会議（マルセイユ）。CBD COP15（中国・雲南省昆明）。アジア湿地

シンポ) が 2021 年度に延期されたため、国際会議の参加はなかったが、2021 年 2 月・3 月に開催された SBSTTA24&SBI3 (オンライン) のインフォーマルミーティングに参加し、湿地保全の国際的動きについて情報を交換した。

・CBD COP15 主催地雲南地方の東南アジア型持続可能な伝統的水田農業への取り組みの視察・ヒアリングによる情報交換については、次年度も現地の状況が不明のため中止することとした。

・韓国の NGO との協力事業の田んぼの生きもの調査は、両国間の移動が困難であったため開催できなかったが、生物多様性保全の技術・情報・意見の交換会は随時実施した。

#### ・田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト/新計画策定部会

部会会議は計 7 回 (うち 2019 年度 2 回) 開催した。当初、新計画の内容策定を先行して進めたが、計画に先行して実施体制を明確にする必要があること、ラムネットだけでなく多くの団体がかかわる形で進める必要があることが指摘された。このことから、多くの関係団体を取り込んだ体制の確立のために、まずは主だった関係団体による意見交換のためのワークショップを行い、その結果を受けて、広汎な関係者によるワークショップによる議論を経て実施体制を確立し、新計画キックオフミーティングに繋げることにした。

この部会会議の方針に基づき、11 月 15 日にラムネット、オリザネット、全農、アレフの担当者によるオンラインワークショップを開催した。新計画の方向性として、オリザネットからの提案があり一定の進捗があったが、実施体制については明確とはならなかった。

年度内にワークショップを開催することとしたが、再度のコロナ感染拡大を受け、ワークショップに代替するイベントとして、生物多様性国家戦略を考えるフォーラム分科会をオンラインワークショップと位置づけた。この中では、①農水省の制度で生物多様性の向上を図るには、②「生きもの調査」による農業生物多様性の普及啓発と水田環境の健康診断及び改善、③生産現場と消費者をつなぐ、の 3 つのテーマで話し合わせ、農水省の生物多様性戦略に提案すべき事項が確認された。

キックオフミーティングは、2021 年度の課題として残されている。

#### ・日韓田んぼ生きもの調査

コロナ禍のため延期となっており、今期は実施していない。

### ●国際条約に基づく湿地保全

#### ・ラムサール条約

ラムサール条約 COP14 へ向けた国別報告書策定に際し、国内 NGO に対しラムネット J として国別報告書に準拠したアンケートを行い、取りまとめた報告書を環境省に提出した。ラムサール条約登録湿地関係市町村会議は新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。11 月にはラムサール条約推進国内連絡会 (オンライン) に WIJ 会員として参加した。

#### ・生物多様性条約

中国雲南省で開催が予定されていた生物多様性条約 COP15 は 2021 年に延期となった。

### ●国内の政策提言

#### ・生物多様性国家戦略への働きかけ

生物多様性国家戦略改訂において、IUCNJ の生物多様性国家戦略への NGO—環境省の意見交換会に参加し、湿地保全が十分に組み込まれるように意見を述べた。また、3 月に生物多様性国家戦略を考えるフォーラムでは農業の分科会の内容から提言をまとめた。

## ●球磨川プロジェクト

球磨川河口のラムサール条約湿地に向けた活動は、鳥による食害を理由に反対する金剛地区の農家によって暗礁に乗り上げてしまった、そこで、まずは金剛地区の農家との距離を縮めるため、2019年度末に開催された八代市でのフォーラムでラムネット J から 2 つの支援メニューを提案した。2020 年度はコロナ禍の僅かな隙を活かして、この 2 つの提案内容を実施した。1 つ目は、地域の児童生徒による生き物調査を行ない、地域の農家との交流を図り、風通しを良くするきっかけを作った。当初、この生き物調査は日韓の生き物調査を予定していたが、コロナにより渡航が難しくなったため地元メンバーだけでの開催とした。2 つ目は、多面的機能支払い制度を活用した農地の生物多様性向上のセミナーを地元で開催し、生きものと耕作は共存できることを知ってもらう機会を提供した。

地元のカウンターパート団体として、新しく関わり合いになった「次世代のためにがんばろ会」とは、2021 年度の助成金申請の支援も行ない、協働で CEPA 活動を推進していくことになっている。

### (3) 普及・啓発事業

## ●湿地のグリーンウェイブ (WGW)

2020 年 4 月～8 月をキャンペーン期間として呼びかけ、全国 24 道府県より 61 タイトルのイベントがエントリー、全国のイベントリスト (3/7 までに申請分) に加え、ラムサール条約や日本の湿地の危機的状況についてなど、ラムサール条約決議の中からトピックをコラムとして掲載した全 16 ページ版のパンフレットを作成、各地に配布した。またホームページではイベント情報だけでなく各団体や湿地の情報も合わせて紹介し、イベント終了後にいただいた報告も掲載した。

このうち、6/15 までに開催されるイベントについては、国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) のグリーンウェイブ本体にも登録し、IUCN-J が主催する「にじゅうまるプロジェクト」への登録も行った。

今年度はコロナ禍により計画を変更、当初予定していた各地へ出向いての応援活動は取りやめ、湿地のグリーンウェイブ 2020 オンラインミーティング～新型コロナ禍時代の湿地保全・賢明な利用についてみんなで語ろう～を実施、記録動画 (ダイジェスト版及びノーカット版) を YouTube にて公開した。

さらに本年はキャンペーンとは別に、8 月より毎月 1 回、湿地のグリーンウェイブオンラインお茶会を開催し、各地のみなさんとの交流、様々なテーマについての意見交換や情報共有の機会を持った。

なお、本年のキャンペーンは、パタゴニア日本支社の助成を受けて実施した。

### (4) 国際協力事業

## ●WWN (世界湿地ネットワーク) の関係

2020 年度開始当初は全世界的なコロナ禍のためクリスとコナー (英・WWT) がレイオフとなり 6 月から開始となった。その後、「市民科学による湿地調査」の日本の湿地に関する協力、メキシコの湿地 (ソチミルコ) の問題、チェアの交替などを議論した。

「市民科学による湿地調査」アンケートの日本語訳を行い、回答を収集 (前回より大幅増)。日韓 NGO 湿地フォーラムに、ルイーザ・ダフ (WWN あいさつ)、ニック・デービッドソン (穴あきダム) からコメントをもらう。

アジア地域代表会議についても毎月開催し、各地の状況について意見交換している。

## ●翻訳プロジェクト

次期ラムサール条約締約国会議（COP14：時期未定）に対し、国が国別報告書を提出するのに合わせて NGO も意見が言えるように報告書書式を日本語に訳した。そのうえで、国内 NGO に対しラムネット J として国別報告書に準拠したアンケートを行い、取りまとめた報告書を環境省に提出し、市町村連絡協議会でも報告した。

## ●日韓 NGO 湿地フォーラム

12月5日～6日に熊本県・八代市、韓国・高陽市をズームで結び、日韓 NGO 湿地フォーラムを韓国 NGO と協働して行った。川辺川穴あきダム計画の問題、湿地保全と周辺ステークホルダー（農家、漁民）とがウィンウィンとなる事例、自然な水の流れについての事例報告を日韓それぞれから行った。7月の熊本豪雨と瀬戸石ダム問題について、つる詳子氏から会場報告もいただいた。公開の5日は参加70名、非公開の6日は参加20名。

## ●球磨川プロジェクト

過去に絶滅危惧種ヘラシギが観察され、クロツラヘラサギの安定的な中継地となっている球磨川河口域につき、次回 COP14 までにラムサール登録湿地に指定されることを支援し、同時に、「水の自然な流れ」の重要性を啓発する事業も併せて行った。

### ・球磨川河口ラムサール登録湿地支援

「地元の賛意」獲得のための支援活動

- 1) 田んぼの生き物調査第1回実施（8月29日）実施 導入編（参加7名）。  
同第2回（11月28日、29日）実施 学生の参加を得て実施（参加15名、23名）
- 2) 多面的機能支払交付金に関する講演会の実施（12月5日）。（参加20名）

### ・水の自然な流れ

- 1) IUCN において「水の自然な流れ」に関する決議 17 として採択された。  
RNJ ニュース 43 号該当記事末尾に、同決議全文の日本語と英語訳のリンク。
- 2) 日韓湿地 NGO フォーラム 12月5日6日（先述した）。

## (5) ネットワーク推進事業

### ●ニュースレター

2020年度はニュースレターを4回発行した（39号～42号）。主な記事としては、「原発に頼らない町作りを目指して ～「奇跡の海 上関」を未来の子供たちへ～」 「コアジサシから考える夢洲の生物多様性」「私の見てきた世界のタンチョウと湿原」「第15回 日韓 NGO 湿地フォーラム（八代市）の報告」など。41号までは毎回1000部印刷したが、コロナ禍で配布の機会が少ないため、42号からは700部に減らした。会員や関連団体に郵送したほか、ホームページ等でPDF版を配布した。

### ●ホームページ等

ホームページでは例年同様、各種活動の情報を発信した。SNSでも「湿地ニュース」を中心に情報を流した。ソフトウェアの入れ替えを計画したが、昨年が続いて作業時間が確保できず実施できなかった。

### ●パンフレット類

団体紹介のパンフレットや入会案内のリーフレットの作成を計画していたが、コロナ禍で基盤強化への取り組みが進まなかったことや、紙媒体の配布が難しいことなどもあり、発行には至らな



った。

## (6) その他の事業

### ●設立 10 周年事業

#### ・冊子・アーカイブ

当初の予定では 6 月中にまとめて発送する予定であったが、作業が遅れ 11 月 4 日に全理事と監事（29 名）に向けて、各 4 冊ずつをクロネコ DM 便で送付した。その後、12 月 17 日に浅野さんから追加の注文をいただいたので 20 冊（1 万円寄付）がはけた。

### ●組織構築の課題への取り組み

#### ・基盤強化部会（評価部会、ビジョン検討部会、事業検討部会）

##### 1) 評価部会：評価にかかる事業計画

年度末に自己評価を行うことになっていたが、実施されなかった。

##### 2) ビジョン検討部会

ビジョン検討部会を 2 回（5 月・6 月）開催し、2009 年に策定された行動計画にもとづいてこれまで実施してきた事業・活動を評価することとした。7 月 1 日には、事業・活動を整理し、活動の評価と今後実施したい事項を会員・理事に諮った。

##### 3) 事業検討部会

10 周年記念誌の後、同内容をベースに、企業向けの団体紹介パンフレットに着手する予定であったが、2020 年度内に作成することはできなかった。実際、企業へのアプローチも、コロナ禍で憚られ進めることができなかった。